

# バリアフリー ムーヴメント

Vol.21

「いざ」じゃないとき知る知識！  
「いざ」というとき引き出す知識！

バリアフリーな社会を生きるため、  
必要なことを先取りしよう！

## 「今回のテーマ」 ドイツでも指示を受けた、 日本発の共用品の配慮

バリアフリーやユニバーサルデザイン、共用品、アクセシブルデザイン、デザインフォーオール…。色々な言葉があるが、これらはおおむね「障害の有無、年齢の高低にかかわらず、より多くの人にとっても使いやすい製品、サービス、施設」のことを言っている。

今回は「共用品」という言葉を使って、ドイツで開催された展示会の情報を紹介する。(森川 美和)

「いやそりではない。目の見える人達も、洗濯時にはほとんどの人が目を閉じるため、目の不自由な人達と同じ状態と同じになる。」

そんな時、ギザギザは「だれにとっても識別しやすい配慮」になる。

「電話の5番の凸」は番号の中心が分かるようにするために付けられたもので、目の不自由な人や暗がりや電話をかける場合に5番の凸が印になる。

「缶ビールの点字表示」は点字で「おさげ」と書いてあるが、目の不自由な人の印になることはもちろん、子ども達に「点字が付いているものはお酒だから飲めないこと」を伝えておけば、誤飲防止にもなる。

つまり、共用品は特定の人のものだけではなく、使う人の考え方や、幾通りもの使い方があり、私たちの生活を便利にしてくれるものである。

\*ドイツの人達は共用品をどう考えているか\*

本展示会アンケートでは、来場者が考える共用品への取り組みについて思うことを、選択方式で選んでもらった。

共用品の普及に関しては、

「高齢者・障害者など皆が理解しあい、生きる喜びを共有する社会への第一歩だ」と思う。「共用品の考え方や実例を社会全体が知る」ことが大切。「今後の商品やサービス作り、共用品の考え方や配慮は大切」という項目が、2003年の調査結果と同じく高い支持を得ていたが、これに加え2004年は、「企業が共用品をたくさん作る」ことが必要、「EUの施策や国家の施策の一環として積極的に推進してほしい」という、企業や国に共用品の普及・開発等を求める声も同じく高かった。

昨今、日本の企業やメーカーは、可能な範囲で「より多くの人を使いやすい」ようになるための製品作り、積極的に取り組んでいる。

「これからどのようなものが生まれてくるか」とも楽しみながら、「この分野は、日本が世界でも先進的に取り組んでおり、今後世界的にも期待される分野である。」

今回はじめて共用品を知ったと言われる方は、是非一度、共用品とはどんなものかを知りたい、毎日の生活の中で生かしていただきたいと思う。

## 共用品を代表する配慮、 いくつ知っている？

左の表の配慮は日本を代表するものであるが、日本在住のみならず、どの程度ご存知だろうか。

2003年のドイツの展示会ではブース来場者の8割の人が「これらの配慮を、知らなかった」と答えている。

しかし2004年の展示会では、「電話の5番の凸」は全体の約5割、「缶ビールの点字表示」は3割近くの人々が「知っている」と答えている。「シャンプーのギザギザ」はわずか1割程度であるが、これはドイツの市場にギザギザ付きのシャンプーの販売がほとんどなく、触れる機会がないためだと思われる。

「知っている」と答えた人達の中には、2003年も本ブースに来場された方も多く、「日

本の配慮は人にとって優しいものばかり。障害のある人達だけでなく、誰にとっても使いやすい」と話した。

\*配慮を知っていたけれど、その理由は何々\*

何となく配慮は知っていたけど、その理由までは知らない人が多い。

たとえば「シャンプーのギザギザ」は、滑り止めたと思っっている方も多いのだが、これは目の不自由な人が洗髪する際にシャンプーとリンスの区別がつかないで、シャンプーの方に「ギザギザ」を入れて、識別できるようにしたものである。

それでは、この配慮は目の不自由な人達のためだけのものか？

日本を代表する共用品の配慮、  
あなたはどれだけ知っていますか？  
また、その意味を知っていますか？

項目	チェック
1 電話の5番に凸が付いているのは知っている	<input type="checkbox"/>
2 シャンプーにギザギザが付いているのは知っている	<input type="checkbox"/>
3 缶ビールのプルトップに点字表示があるのは知っている	<input type="checkbox"/>
4 全く知らなかった	<input type="checkbox"/>



■片手で使えるリコーダーに感心する来場者



■細かい配慮に見入る来場者



■アンケートに答える来場者



■JAPANブース(共用品コーナー)

■共用品推進機構ホームページ共用品リスト：  
<http://kyoyohin.org/02kyoyouhin/2004cataloglist.html> (閲覧は無料です)  
■共用品白書(発行：ぎょうせい) 2,800円  
(全国の書店で好評発売中)

\*JAPANブースは、日本貿易振興会(JETRO)並びに日本福祉用具・生活支援用具協会(JASPA)が、日本の福祉機器メーカー等に海外でのビジネスチャンスを提供するために設けたブース。(2003年度から開始)  
\*アンケートは本ブース来場者約1500人のうち102人の回答をもとに分析している

【お問い合わせ先】  
財団法人共用品推進機構  
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-4  
TEL:03-5280-0020/FAX:03-5280-2373  
HP: <http://kyoyohin.org/>

(PR) 財団法人共用品推進機構 ☎03-5280-0020 / FAX03-5280-2373  
URL: <http://kyoyohin.org/> E-mail: [jimukyoku@kyoyohin.org](mailto:jimukyoku@kyoyohin.org)